

[2018 年度首都圏高校入試変更点]

- ・昭和第一学園 特別選抜コース新設、特進コース→選抜進学コースは既報、追加情報：特進 56 名総合進学 280 名工学科 240 名→特別選抜 16 名選抜進学 120 名総合進学 320 名工学科 120 名
- ・筑波大坂戸 国際バカロレア・日本語ディプロマ対応入試新設を検討中は既報、追加情報：スーパーグローバルクラス(以下SGクラス)のSGⅡ併願廃止、国際バカロレア・日本語ディプロマ生募集のSGⅢ型入試新設、単願・併願可、3科+本人面+同伴面ただし英語は英検2級程度(CFERでB1)で同レベルの英語有資格者は英語試験免除、定員約10名でSGクラスに含んで募集、授業は1年時がSGクラス週32時間中18時間が別カリキュラムで取り出し授業、2・3年時がIB日本語ディプロマ(「言語と文学」「数学」「生物」「地理」は日本語、他は英語)でSGクラスとは完全別授業

[2017 年度埼玉県公立高校入試 学力検査平均点]

例年この時期に、埼玉県公立高校の今春の学力検査の分析について、平均点と県教育局が公表した教科ごとの分析をお伝えしていますが、今年はまだ教科ごとの分析が発表されていませんので、春先に発表されている平均点のみお伝えします。

教科	国語	数学	英語	社会	理科	5 科 (3 科)	学校選択問題	
							数学	英語
17 年度	53.3	44.4	52.0	60.6	48.5	258.8	43.2	71.9
16 年度	57.9	51.1	57.4	63.7	39.2	269.4	—	—
15 年度	56.0	48.1	55.6	49.1	50.3	259.1	—	—
14 年度	64.0	45.0	45.0	49.5	46.1	249.6	—	—
13 年度	65.6	42.4	53.7	50.3	63.4	275.5	—	—
12 年度	59.7	36.5	44.1	49.0	48.7	237.9	—	—
11 年度前期	52.7	40.4	47.4	57.5	45.2	243.2	—	—
11 年度後期	54.1	44.3	46.0	—	—	144.4	—	—
10 年度前期	56.2	42.4	52.9	49.5	51.5	252.5	—	—
10 年度後期	59.9	47.6	54.8	—	—	162.3	—	—

今春から、上位校の英数で学校選択問題が実施され、社会と理科は試験時間が40分から50分に延長されました。学校選択問題は、一般的な学力検査問題で、特に数学の平均点が低く、状況の改善が求められたための処置で、上位校の立場からは得点しやすくなることで差がつかなくなることから、英数は上位校向けの難度の高い問題が用意されたものです。また、社会と理科は記述問題の増加に対応して時間不足の受験生が増えていることから、しっかり得点できるようにとの配慮でした。表は、100点満点に切り替わった2010年度からの平均点の推移です。県教育局では、3月の入試の直前に予想平均点を報道機関に公表していますが、国語55点、数学48点、英語48点、社会55点、理科50点、学校選択問題数学60

点、同英語 65 点でした。

国語は昨年より 4.4 点下がっていますが、予想平均点とは 1.7 点差で、ほぼ予想通りでしょう。数学は昨年より 6.7 点下がり、予想平均点よりも 3.6 点下回っています。昨年まで、高得点をとっていた学校選択問題実施校の受験生がいなくなり、平均点が下がるのは致し方ないことなのでしょうが、予想平均点を 3.6 点下回っていることから、あまり得点しやすくはなかったようです。2010 年以降の推移の中では、過去にもこのくらいの平均点はありましたし、特に今回の結果が際立って低いわけではありませんが、そもそもこのくらいの水準で受験生の学力がしっかり測れているのかは考える必要があるでしょう。英語は昨年より 5.4 点下がっていますが、予想平均点よりも 4 点高い結果でした。英語は成績上位生と苦手な生徒とで差が大きくなりがちなことから、予想平均点も低く設定したようですが、受験生が健闘したようです。

時間を延長した社会は昨年より 3.1 点下がっていて、予想よりも 5.6 点高くなっています。もともと昨年の水準が高すぎだったうえに時間を延長したわけですから、それで平均点が下がっているのは昨年よりも点の取りにくい出題が増えたことを示していますが、県教育局としてはもっと点がとれないと思っていたようです。理科は 9.3 点と、昨年より大きく上昇しましたが、予想平均には 1.5 点及びませんでした。表のように昨年の水準は低すぎで、時間延長とあわせて出題も改善されました。予想と 1.5 点差なら、目的を達したと言えるでしょう。

学校選択問題の数学は 43.2 点で、学力検査問題の 2010 年度からの水準と比べても低い方です。予想平均点が 60 点ですから 16.8 点差で、難しすぎました。英語は 71.9 点と、こちらは 2010 年度からの学力検査問題の水準と比べても最も高く、予想平均点も 6.9 点上回り、やさしすぎました。埼玉県に限りませんが、公立高校の学力検査問題は中学校での学習指導での 1 つの到達目標になります。一般の学力検査問題にせよ、学校選択問題にせよ、数学は県教育局が求めるレベルに中学校現場での指導が追いついていないわけです。「目標は高く」が良いのか、「実情に合わせる」が良いのかは議論余地があることですが、いずれにしても中学校現場、あるいは塾等のサポート機関での指導改善は必要でしょう。英語は一般の学力検査問題、学校選択問題とも予想を上回り、特に学校選択問題の高さが際立ちます。これが中学校現場の努力なのか、塾等の努力なのかはいろいろあると思いますが、グローバル化対応で英語力の強化が叫ばれている現在、さらに努力してレベルアップを図ることが必要でしょう。